

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 大曲 (あかしあ)		
所在地	北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2-2		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171300072&amp;SCD=320">http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171300072&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 1 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北広島市大曲地区の住宅街にある2階建てのグループホームです。近くには大型スーパーや郵便局、高速道路のインターチェンジがあり、利便性の優れた場所に位置しています。法人として4つのグループホームを運営しているため、研修や車の手配、契約や各種手続きなど、本部の支援体制が充実しています。また、職員が利用者によりやすく接しており、利用者が明るい表情で過ごしています。職員は理念をよく理解し、職員同士の連携・協力も良好です。ボランティアや保育園児など、多くの方がホームを訪れ、利用者とは交流しており、車での外出行事も多く楽しみごとが豊富です。介護サービスの面では、きめ細かなアセスメントの実施や、関係者の意見を集約した介護計画の作成、プランに沿った介護の実践が行われています。また食事の面では、利用者の希望を聞きながら、ユニット毎に献立を作り、彩の豊富な食事の提供を心がけており、毎回の食事の写真を撮り、ホーム毎にコンテストを行い、競いながら向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りにて唱和し、理解に努めている。	理念の中で「地域に愛され馴染みのある生活」という文言を入れ、地域密着型の理念として確立しています。理念は共用部分に掲示したり、申し送り時に唱和し、職員全員が理解し実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入したり、ホームでの行事へのお誘い等行っている。	利用者が地域のごみ拾いやパークゴルフなどの行事に参加しています。踊りや歌、絵手紙などのボランティアの方がホームを訪れ、利用者を楽しませて頂いています。また、近くの保育園の児童と交流もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事への参加や、里の家祭りに参加していただき交流を持っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回行われ、ホームの様子等情報交換が行われている。意見交換でいただいた情報で交流の場を持つなどしている。	会議は2ヵ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会長、町内会福祉委員、家族代表などの参加を得て、防災や地域交流などをテーマに意見交換されています。参加できなかった家族に議事録を送付しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者と共に、市の福祉課と相談しながら課題解決に取り組んでいる。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ており、市の依頼により、地域でのグループホームの理解を深める説明会の協力もしています。市から入居の相談を受けるなど、情報交換を密にしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	電子錠にて施錠されているが、身体拘束については、資料等で勉強したり研修会への参加、また常に管理者から指導を受けている。	重要事項説明書に身体拘束を行わない旨を明示し、身体拘束は行っていません。身体拘束のマニュアルを整備し、禁止の対象となる行為の勉強会も行っています。外の道路の交通量が多いため、出入口は安全のため施錠していますが、圧迫感の無いよう配慮しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員同士、勉強の機会を持ったり話し合いの元虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を立てている入居者の方も居り、どのような制度なのか理解するよう勉強の機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、理解・納得を得られるような説明が行われている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。日頃より面会時等、意見や要望をお聞きするようになっている。	家族の来訪時に意見を聞き、意見や要望を「家族対応記録簿」に記載し、職員間で共有しています。また、玄関には意見箱を設置しています。個別の金銭管理の締日の変更など、家族の意見を反映し変更した例もあります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて、意見等を聞く機会を設けている。	毎週木曜日にユニット会議を行って、活発に意見交換をしています。管理者は必要に応じて職員と個別に面談しています。各職員は行事や食事、環境整備などの役割を分担し、運営に参加しています。職員同士が意見を言いやすいような環境を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より、都度の説明等行われている。上層部と、都度状況に応じた話し合いを管理者と行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修や、他機関の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流や、研修へ参加する事で質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は、ご本人やご家族よりお話を伺ったり、様子観察を行い安心して生活して頂けるような対応、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に、お話を伺い不安や要望等を把握し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺いながら、必要な支援を見極めるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事の見極めをし、出来る範囲で負担にならないようなお手伝い等の働きかけをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや、話しやすい雰囲気づくり、日々の生活に関する様子をお伝えし、一緒にご本人を支えあえるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等により、馴染みの方と会う機会を持たれていたり、昔のお話を伺い馴染みの場所の思い出を伺ったりしている。	利用者の知人や友人との手紙や電話のやりとりを支援しています。希望に応じて理・美容室、居酒屋や墓参りなど、個別の外出支援もしています。地域の文化祭や焼き肉大会などで新たな知人ができている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルに発展しないよう見守りし関わりを持っていただいたり、他ユニットとの交流の機会を持つようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、お見舞いに行ったりしている。退去されたご家族様も来設されることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度の対応に努めている。意思表示の難しい方には、ご家族と相談したりご本人の表情等から対応したり職員間で検討したりしている。	思いを表現するのが難しい方は、表情や仕草などから把握するよう努めています。センター方式のアセスメントシートを3ヵ月毎に作成し、情報をきめ細かく蓄積し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報や会話から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情観察や様子を伺いながら、現状の把握に努め一日を過ごして頂いている。スタッフ間での情報交換も密に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度は、ユニット会議にて話し合いをしており、より良くご本人らしく暮らして頂ける様、都度の対応に努めている。	介護計画は3ヵ月毎に見直しが行われており、計画の作成・見直しに当たっては、各職員が会議までに評価を行い、家族の意見も聞き、職員も意見を出し合って計画を作成しています。日々の記録も介護計画を参照しながら記録されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りにて情報交換を行ったり、介護記録に記入し把握に努め介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	三か月に一度の見直しにて、必要な支援を取り組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問を楽しまれている。他、美容訪問での散髪等も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の病院への受診支援を行っている。また、協力病院では二週に一回の往診を受けたり、体調により都度受診できるよう支援している。	協力医療機関による2週に1回の往診を受け、他のかかりつけ医の通院についても、送迎を支援しています。受診内容は介護記録に記載し、必要に応じて家族に報告しており、報告内容を家族対応記録に記載しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時や往診時に現状を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けた話し合いは行っており、ご家族様の意向も含め、早期退院に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意向を伺うことは難しいが、面会時等に意向やホームでの取り組み等都度説明している。状況に応じて、ご家族との話し合いの場も、設けている。	重要事項説明書に「重度化に関する指針」を入れ、利用開始時に説明しており、重度化した場合は同意書を交わしています。過去に看取りの経験はありませんが、医療関係者と方針を共有し、適切に対応する方針としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルの読み返しや、対応についての話し合いは行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は難しいが、夜間を想定した防火訓練を行ったり、対応についての話し合いを行っている。	年2回の夜間想定避難訓練を実施しており、定期的な救急救命訓練の受講も行われています。災害時の地域協力については、運営推進会議で検討中です。災害時に必要な水や非常食など、備品の準備はまだ十分ではありません。	災害時の地域との協力について、検討し実行に向けて進めているとのことであり、継続的な取り組みに期待します。また、災害時に必要と考えられる備品類についても、ホームや本部で準備されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊重とプライバシーには気を付けトイレ誘導等の声掛けも他者に気づかれないよう配慮している。同じ目線での言葉かけを心掛けている。	利用者への呼びかけは「さん」づけを基本にし、利用者の希望する声掛けを行っています。個人ファイルは安全な場所で適切に保管しています。一部にプライバシー保護や守秘義務の徹底について十分でないケースが見られます。	プライバシーの保護や守秘義務を守ることの徹底などを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺い、可能な限りの対応は行っている。自己決定の難しい方には、選択肢を出し、ご本人に決めていただけるよう働きかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿った働きかけは、可能な限り行っている。また、表情や体調を伺いながらの支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で行えない方が多いため、服の汚れ等気にかけて支援している。起床時等の寝癖、服の乱れにも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な方もいるが、見た目などでも楽しめるよう盛り付けしている。できる範囲でのお手伝いも働きかけている。	利用者の希望を聞きながら献立が作られ、彩豊かな食事が提供されており、写真を撮り、ホーム間でコンテストを行っています。配膳や片づけ、漬物作りに利用者が参加しています。職員も会話しながら一緒に食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え提供している。水分摂取少ない方には、多く摂って頂けるようジュースやゼリー、果物等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の洗面時に声掛けや見守り、介助にて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用したり表情を見ながらトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。	誘導が必要な方は、排泄チェック表を作成し、パターンを把握して誘導しており、プライバシーの配慮を基本とするよう職員を指導しています。オムツやパッドの使用が徐々に増えていますが、日中は、出来る限りトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけは難しいため、繊維質の多い野菜や果物、ヨーグルト、水分を多く摂っていただくような工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否する方や体力のない方もおり、言葉かけの工夫や様子を見ながら、曜日は決めずタイミングに合わせて支援している。	概ね午後の時間帯を基本に毎日入浴することができ、各利用者が週2回以上入浴しています。入浴を拒む場合は清拭したり、対応の工夫で入浴に繋がっています。浴室内に複数の高さの椅子を用意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力により、静養の促しを行っている。温度や湿度にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についての理解に努めている。不明な点には、医師より説明を受け症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、楽しみとなる事を把握し提供している。日々の生活の中で、歌ったりし楽しめる時間を持ち気分転換に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の外出は少ないが、冬期間以外の時期は、積極的に外出の機会を持ったり、玄関前での日光浴や、散歩への支援を行っている。	近くの畑やスーパーに出かけたり、ホーム前のウッドデッキで外気浴をしています。大きな車を用意しているため、多数で出かけることができ、車での外出が充実しています。花見や紅葉狩りなどで、苫小牧や小樽など少し遠い所に行ったり、他のグループホームと交流しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望によりお財布にお金を入れている方もいらっしゃる、家族との外出時に使用されたりしている。お金の管理が難しい方については、ホームでの管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をされる方には対応している。また、かかってきた電話を取り次ぐ事はある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には、季節ごとの飾りつけをし季節を感じていただくようにしている。	共用空間は明るく清潔に保たれており、家庭的な家具や遊び道具、植物などが置かれています。壁には行事での写真や季節の装飾、ボランティアによる絵手紙、パッチワークの押絵などが豊富に飾られ、馴染みやすい雰囲気となっています。風呂やトイレも使いやすい造りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ同じ場所で過ごす方が多いが、お互いに声を掛け合ったりし、パズル等楽しまれたりしている。また、ソファがある場所でくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、ご自宅で使用していた物を持ってきてもらうようにしている。危険回避の為、物を置くことが難しい事もある。	居室にはテレビやタンスなど、利用者それぞれが自由に馴染みの物を置いており、居心地良く過ごせる場所となっています。壁には、利用者の写真入りの職員手作りカレンダーなどが、自由に飾り付けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙をし、分かりやすいよう工夫している。自立に向け掃除道具を使用しやすい場所に置いたりしている。		